

## 藤沢市立長後小学校

研究テーマ：「ともにのびゆく長後っ子～関わり合い・伝え合い・学び合い～」

### 1 実践の目的

本校では、「ともにのびゆく長後っ子～関わり合い・伝え合い・学び合い～」というテーマのもと、校内研究を進めてきた。低・中・高の3部会に分かれ、目の前の児童の姿から、発達段階に応じた具体的目標として、「関わり合う低学年」「伝え合う中学年」「学び合う高学年」を掲げた。研究は主に、縦と横のつながりを意識して、継続的に授業実践を行い、児童の変容や手立ての効果、次への目標等を検証しながら、深めてきた。

また、高倉中学校と連携することで、我々の研究や児童の様子を知ってもらうとともに、我々の目指す姿のその先である中学校での生徒の様子を知ることができた。9年間を見据えた互いの学びを共有することで、児童、生徒だけでなく、教職員同士も「学び合い」ながら、互いの研究を深めていくために「学びづくり」の実践を進めてきた。

### 2 実践の内容

#### (1) 研究の概要

各学年の校内研究推進委員を中心に「関わり合い・伝え合い・学び合い」をテーマとして研究を推進してきた。低・中・高学年ブロックで、縦と横のつながりを意識した研究をしてきた。各学年と特別支援学級がそれぞれ1本以上の研究授業を公開してきた。

指導案では「テーマに迫るための手立て」の項目を学年で十分に検討し、その点を中心に授業を参観し、協議会でも手立てを焦点化して話し合いを進めてきた。

また、9年間を見据えた系統的な学びを大切にし、高倉中学校との連携を深めるために、お互いの授業や研修会に参加してきた。系統性を意識した研究を進めていくことは、昨年度の反省から、今年度の大きな課題であったため、中学校の教員と授業を通して交流できたことは大きな学びとなった。

また、筑波大附属小学校の溝越勇太先生を講師としてお招きした。ユニバーサルデザインの視点で「どの子にも、楽しくわかりやすい授業づくり」という視点で全職員が講義を聞くことができた。溝越先生には、本校の3年生と4年生のクラスで1時間ずつ国語の飛び込み授業をしていただいた。本校の児童が溝越先生の授業を受ける様子を職員が参観し、その後の協議会で手立てやポイントについてお話を伺えたことは大変意義のある学びとなった。



## (2)「関わり合う・伝え合う・学び合う」

授業づくりのために

### ①低学年部会

低学年部会では、「関わり合い」をテーマとした授業研究を進めてきた。日々の授業の中で子ども同士が「安心して、楽しく関わり合い、学ぶ」場面を多く取り入れてきた。全ての教科で「ペア学習」をこまめに取り入れることによって、全体の場での発言が難しい子にとっても、ペアでなら安心して自分の考えが伝えられるようになってきた。1年生は算数、2年生は国語の研究授業を行った。研究授業後の協議会でもペア学習を中心とした関わり合いが、学級全体への関わり合いにつながる場面を数多く見ることができたという意見が多くあった。また、1・2年で取り組むことで、横だけでなく縦のつながりを意識して研究を進めることにつながった。

学びのアンケートや日々の授業の様子から感じられたことは、年度始めに比べると、各クラスで「関わり合うことが楽しい」と感じながら学習に取り組める児童が増えてきたことである。今後も継続して関わり合う楽しさを感じられる授業づくりに努めていきたい。

### ②中学年部会

低学年部会では、「伝え合う」をテーマに授業研究を進めてきた。日々の授業の中で、ペアで話し合う時間やグループ活動・スピーチなど、子どもたち同士の関わり合い伝え合う場面を多く取り入れてきた。また、研究授業は、両学年とも算数を行った。年度初めは、自分の意見は言えるが友だちの意見を聞いたり、自分と反対の意見を受け入れるのが難しい児童や、反対に良い意見を持っているが自信を持って人前で

発言することが難しい児童が多かったが、日々の関わり合い伝え合う学習の中で、友だちの意見に質問をしたりうなずくなど反応しながら聞いたりする姿が増えてきた。また、自分と似ている考えの友だちを見つけたり、自分の意見と友だちの意見を比べたりするなど自分の思いや考えを受け止めて聞き、話し合う姿も多く見られるようになった。一方で、自分の考えを説明する力はまだ苦手な子が多いので、引き続き「伝え合う」を意識して取り組んでいきたい。

### ③高学年部会

高学年部会では、「学び合う」場面として、例えば、道徳の「健太の役割」という題材では、登場人物の立場だったらどうするのかをいろいろな人と共有する時間を設けた。その後、学校生活に置き換えた時に自分だったらどうするかを発問にすることで児童が自分事として考えることができた。

体育の学習では、4月から同じ流れで展開する授業とチャレンジカードを使用した授業を行ってきた。その中でペアやグループ内でアドバイスを伝え合い・学び合う活動を積極的に取り入れてきた。「見てほしいポイント」を明確にし、伝え合うことで、友だちの困り感に寄り添ってあげようとする子どもたちの姿が見られた。



### 3 実践の成果と課題

#### (1) 教師の学びと変容

昨年度までの「関わり合う・伝え合う・学び合う」をテーマとした校内研究の積み重ねに加えて、今年度は「学びづくり」を中心に高倉中学校との連携を図り「9年間を見据えた系統的な学び」という視点を取り入れて研究を進めることができた。中学校の授業を参観し、協議会に参加することで、小学校で積み重ねてきた「関わり合う・伝え合う・学び合う」姿が、中学校のどの学年にも生かされているという姿を見たり、中学の先生に児童の学習の様子について話を聞いたりすることができたことはとても嬉しい学びであった。小学校の学びの積み重ねにより、中学でも男女混合のグループで自分の意見を伝え合い、友だちの考えに反応しながら学ぶ姿に現れていた。小学校での学びを土台として中学の学びがあることを改めて実感できた。同時に「一人ひとりの基礎的な学力の底上げ」が小学校の段階で重要であるという課題を再認識できたことも貴重な学びであった。

校内での授業研究においては、テーマに迫るための手立てを各学年で年度当初に十分に検討し、年間を通してテーマと手立てを意識しながら授業研究を行うことができた。また、研究授業では、手立てが有効であったかという視点をもって授業を参観し、焦点化して協議会を進めることができたことも、前年度の研究を生かした本校の継続的な研究を進めていくうえでの成果につながった。また講師の溝越勇太先生の研修や、飛び込み授業の参観を通して、全職員でユニバーサルの視点を学び、日々の授業に生かしたことは大きな成果であった。

#### (2) 学びのアンケートと児童の変容

各学年で「関わり合い、伝え合い、学び合い」を大切にした授業の積み重ねから「楽しく、安心して自分の考えを伝え合う姿」が日常の姿として定着してきた様子が多く見られるようになった。

特に、年度当初ペア学習が苦手だった子が少しずつ自分の考えを言えるようになったり、自分の考えは言えなくても、友だちの考えを皆に伝えられるようになったりしてきた。

「学びのアンケート」からも児童の変容が確認できる。「授業では、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいますか。」という項目に対し、1学期に比べて3学期には「とてもそう思う」という回答が全体的に増加傾向にあった。各教科で自分の考えを伝え合う活動を日々取り入れてきたことが成果につながってきたように感じる。授業全体の課題を自分の課題として受け止め、友だちに自分の考えを一度伝えてから学級全体で学びを深める授業の流れは、今後も継続して行っていきたい。

### 4 今後の展開

子どもたちが安心して楽しく学校生活を送っていくためにはまず「日々の授業を充実させること」が何よりも大切である。

今後も、今年度学んだ9年間の系統性を意識して日々の授業づくりに励み、全員が主体的に授業に参加できる学習環境を整えることで、中学に向けて一人ひとりの基礎的な学力を伸ばしていきたい。

また、家庭・地域で共に協力して長後小学校の子どもたちを育てていくという視点を持つことも大切にしていきたい。